

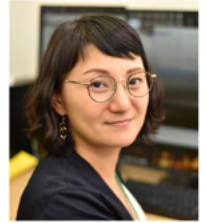


市民公開講座(J-CIP企画)

# がん登録で社会のニーズにこたえるには？

JACR理事/J-CIP委員会  
伊藤 ゆり

大阪医科薬科大学研究支援センター



第30回学術集会の市民公開講座の第二部において、J-CIP委員企画のオンライン講演会が開催され約150名が参加しました。

## がん登録への期待と協働

### 希少がん患者のニーズ

患者とともに作り上げる  
がん情報への期待

ガテリエ・ローリン先生(国立がん研究センター・日本脳腫瘍ネットワーク)は希少がん患者として、ご自身の経験や希少がんネットワークの調査で把握したニーズを紹介しました。希少がん患者として、個人特定されないレベルで詳細に情報を発信してほしい、また患者会との交流により、ともに情報発信していくことへの期待をお伝えくださいました。

### がん相談支援員のニーズ

施設別がん登録件数検索システムを  
活用した情報支援

池山晴人先生(大阪国際がんセンター)はがん患者さんが必要とされる情報を提供するがん相談支援員として、がん治療の各場面で求められる意思決定のサポートをしています。  
院内がん登録を利用した施設別がん登録件数検索システム(<https://jhcr-cs.gan-joho.jp/hbcrtables/>)は患者さんの意思決定における有用なツールであり、今後は希少がんの情報も迅速に検索できるようになることを期待しています。

### 臨床医のニーズ

重複がん予防のエビデンスに  
がん登録を活用

佐藤美紀子先生(日本大学)は臨床医として婦人科腫瘍の治療後のサバイバーには、多面的な支援が必要と感じています。治療内容やその後の生活習慣、がん検診に関連する重複がんについて、がん登録を用いた研究を開始しました。座長の松本陽子先生(全国がん患者団体連合会)は患者・家族がとても必要としている情報であると、研究への期待をお伝えしました。

### 行政がん対策担当者のニーズ

根拠に基づく課題の明確化により  
地道な対策を継続

姥名勇登先生(元青森県健康福祉政策課長)はがん死亡率が高い青森県でがん対策の担当となり、まず、がんの実態把握から始めました。早期診断割合が低く、がん検診が正しく実施されていないことが示唆され、体制整備に尽力されました。根拠のある課題に予算をつけて、地道に取り組むことにより、青森県のがんの状況を良くしていきたいとお話されました。



### 企業のニーズ

がん登録を活用し、早く必要としている  
患者さんに薬を届けたい

村松綾子先生(サイニクス株式会社)は製薬会社にデータを分析し紹介する企業の立場として、製薬企業が求めるがん情報についてお話しされました。製薬企業は罹患率将来推計、年齢・進行度別など詳細の患者数、生存率により患者や市場のニーズを把握しています。発患者数、遺伝子型、バイオマーカー別の情報など、がん登録だけでは把握できない他のデータベースとリンクすることで得られる情報が求められていることが紹介されました。

## 社会のニーズにこたえるデータ



### ■がん情報サービス:

自分に合った情報に到達するにはレイアウトが重要

片野田耕太先生(国立がん研究センター)はがん情報サービスでがん統計情報を発信する立場として、自分に合った情報やどの病院にかかるべきかなど、GISTを例にインターネットでアクセスできる情報を紹介されました。情報に到達するためにはレイアウトが重要であることやユーザーとともに作り上げていく必要性についてお話されました。

### ■J-CIP: パートナシップで作るがん情報

伊藤ゆり(大阪医科薬科大学)はJ-CIP活動を行う立場として、これまでの活動と今後の協働についてお話ししました。Localは各地の地域密着型のがん情報発信サイトを紹介、Empowermentは、様々な立場からのニーズを受けて、情報を活用できるような動画配信を展開、Globalはサバイバー生存率について紹介しました。今回いただいた多くのニーズに基づき、フィードバックをいただきながら情報発信をしていきたいと思います。

座長の片山佳代子先生(群馬大学)からは様々な立場の方からいただいたがん登録への期待やニーズを受け止め、多くの方との協働によりがん登録の活用にも努めたいとまとめられました。最後に理事長・猿木信裕先生からJ-CIPのきっかけとなったカナダのCPACについて紹介され、様々なステークホルダーとの協調により、がん登録を活用しがん対策への貢献を誓うことで締めくくられました。公開講座の内容はその場で描かれたグラフィックレコーディングとしてまとめられました。また、J-CIPサイトより動画もご覧いただけます。